

# 第2章 自然と共生する都市の実現に向けて

## 1 豊島区の現状

### ● 生物多様性に関する豊島区の状況 (資料 P.71)

#### ▶ 緑被率の推移

平成27年に行った緑被現況調査では、区内の緑被面積は167.2haで緑被率は12.9%でした。

昭和49年からの推移では平成9年までは緑被全体が減少していましたが、平成16年以降は増加しています。開発時における緑化指導による新たな緑地整備や既存樹木が大きく育ったことでもあります。また、平成9年調査までは10㎡以上(水準Ⅱ)の緑被を調査対象としていましたが、平成16年からは1㎡以上(水準Ⅰ)を対象とすることが可能となり、街路樹、住宅地の庭木、集合住宅や事業所の植え込みなどの小規模な緑被をカウントできるようになったことも大きな要素のひとつです。平成21年から平成27年の推移では、緑被率は12.9%と変わりませんが、樹木被覆地が減少しています。

表3 緑被等の面積と割合

項目	面積(ha)	構成比(%)
人工構造物被覆地以外	190.2	14.6
緑被地	167.2	12.9
樹木被覆地	147.9	11.4
草地	14.1	1.1
屋上緑化	5.2	0.4
裸地	22.1	1.7
水面	0.9	0.1
人工構造物被覆地	1,110.8	85.4
合計	1,301.0	100.0

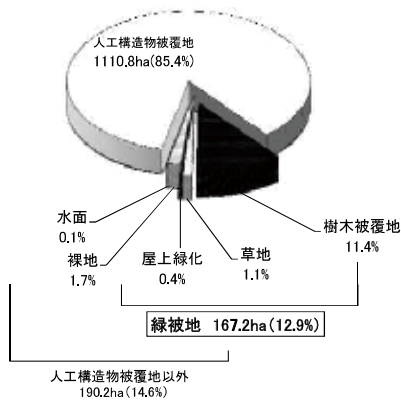


図2 緑被等の構成

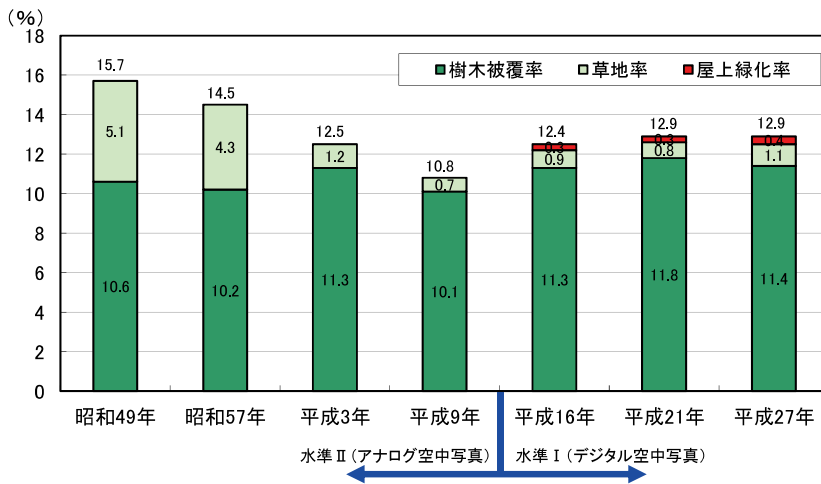


図10 緑被の推移

(出典：豊島区みどりの基本計画)

## 2

## 施策の実施状況

## ● 豊島区のいきもの情報共有事業（資料 P.71）

生物多様性の普及啓発・保全に向けて、区内の自然環境を把握するモニタリング調査を実施し、収集した情報を多様な主体と共有する仕組みを構築します。

平成 28 年度は専門家によるモニタリング調査を行いました。区民参加型調査（イベント型）では、公園等の身近な地域を歩いて生き物を観察する「街の生きものさがしウォーキングツアー」を行いました。



ウォーキングツアーの様子

## 《評価・分析》

年 2 回実施したウォーキングツアーでは、参加者計 25 名の大半から満足できたとの声を頂き、身近に多く生きものを感じる機会を作ることができました。また緑地が少なくこれまで専門家による調査結果の少なかった区内西部地域の生きもの情報を得られました。

## 《今後の取組み》

専門家による生物多様性モニタリング調査とこれまでの区民参加型調査の結果を受けて作成した、区内の生きものを紹介する「としま生きものガイドブック」の配布により、多くの方と区内の生きもの情報を共有していきます。

## 【関連する環境基本計画の施策の方向】

2 (3) 生物多様性についての普及啓発

2 (4) 生物多様性に関する情報の収集・共有・活用

## ● 在来つる植物の保全育成（資料 P.71）

環境基本計画の施策の「みどりと水の質の向上（生きものがすみ続けられるまちづくり）」で在来種を取り入れた緑化を推進すると掲げています。平成 28 年度は「目白の森」などで、つる植物の保全育成を行いました。

## 《評価・分析》

この事業で始めて花芽をつけていることが確認できました。平成 26 年度から育成を行ってきたつる植物が年月を経て、現在の場所に定着できたものとみ

られます。

### 《今後の取組み》

平成28年度にてつる植物の育成確認は終了し、平成29年度からは同じく「みどりと水の質の向上（生きものがすみ続けられるまちづくり）」に掲げる緑地と水辺の維持管理を目指した取組みを試行的に行っていきます。

【関連する環境基本計画の施策の方向】

2（1）みどりと水の保全・創出とつながりの確保


2（4）生物多様性についての普及啓発

### ● としま生きものさがしの実施（資料 P.71）

自然や生きものへの関心を高めて頂くために、区内にどのような生きものがあるのかを区民の皆さん自身が調べる「としま生きものさがし」を行いました。調査期間中（7月～9月）に見つけた生きものを記録用紙に記入して報告して頂きました。報告件数は、491件。その内チョウの仲間が最も多く126件、続いてセミの仲間71件、トンボの仲間39件と続きました。

お寄せいただいた情報は、ニュースレター発行の他、環境省の生きもの情報共有システム「いきものログ」を活用し、区内の生きものの情報を広く共有していきます。



指標	基準年度 (H24年度)	現状 (H28年度)	目標 (H30年度)	達成状況	備考
生きもの調査に参加する区民の数	—	217人	200人		5年間の累計

### 《評価・分析》

目標年度よりも早く目標参加人数を上回ることができました。特に「としま生きものさがし」では、開催期間の延長の他、区民団体への宣伝等幅広く周知を行ったことで、多くの参加者を得ることができたと考えられます。

### 《今後の取組み》

平成29年度も区民団体への周知や調査ガイドの配布箇所の拡大を行うなど、幅広い周知を行っていきます。






【関連する環境基本計画の施策の方向】

2（3）生物多様性についての普及啓発

2（4）生物多様性に関する情報の収集・共有・活用

3

その他成果指標

指標	基準年度 (H24年度)	現状 (H28年度)	目標 (H30年度)	達成状況	備考
緑被率	12.9% (H21年度)	12.9% (H27年度)	13%		
学校・区立公園のビオトープ数	10か所	16か所	15か所		
生物多様性という言葉の意味を知っている区民の割合	19.4% (H23年度)	16.7% (H26年度)	25%		現状値は国の調査結果
エコミューゼを活用したイベント・講座数	—	13回	24回		
生息・生育環境を評価する指標種の設定	—	—	10種以上		

《評価・分析》

区役所本庁舎のエコミューゼの一部である「豊島の森」を活用した講座は年に5、6回程度行っており、目標の講座数に達することができると考えています。

生物多様性という言葉の知名度については、国の調査ではありますが基準年度より低くなっています。今後も区民への周知を行っていくことが必要です。

《今後の取組み》

生物多様性保全に向けた取組みやイベントの開催はもちろん、その周知活動を幅広く行い、多くの区民に取組みを知っていただく機会を作ります。